

【テラゾ舗装について】

- ・テラゾ舗装は、現在の緑道の廃材を再利用しているのか。工事で出た廃材はどこで誰が管理しているのか。
緑道の廃材の再利用については、現在検討しています。
2025.1.31時点では、工事で発生した建設副産物は、再資源化施設へ搬出し処理しています。

【樹木について】

- ・幹回り90cm以上の樹木については3m以内は手掘りで工事を行うという話だったが、実施しているのか。
街路樹診断等マニュアル（東京都建設局）では、「工事配慮エリア内の掘削は、根の切断を防ぐため、極力人力施工とする」とされており、現場においては状況に応じて対応しています。工事配慮エリア内において、樹木の根の伸長が予想される場合は、樹木の枝張り等を確認しながら樹木の根だけに限らず、埋設物等にも配慮して丁寧に施工しています。
具体的には、樹木の状況が1本1本異なることから、まず人力で探り堀りを行い、樹木の根や埋設物等がないことを確認した上で、2人体制（機械操縦、手元指示）で、根の状況を確認しながら、丁寧に機械施工を行っています。また、必要に応じて専門家に意見を伺いながら、工事を実施していきます。



人力で探り堀りを実施している様子



掘削の様子



【樹木について】

- ・ 樹木の根に配慮して施工しているのか。

掘削により露出してしまった根は、状況に応じて根巻きシートで保護し、定期的に水撒きを実施しています。
また、断面が露出した場合は、癒合材を塗布しており、樹木に配慮しながら工事を進めています。



根巻きシートでの保護



根への水撒き



癒合材塗布

- ・ 樹木医は現場に来ておらず職人任せになっているのではないか。樹木医はどのくらいの頻度できているのか。
日頃は区の監督員（街路樹等診断マニュアルでいう「街路樹担当」）が現場を確認しています。
また、工事の進捗や現場の状況に合わせて適切な段階で樹木学の専門家に立ち会っていただいています。

- ・ 低木の撤去及び更新について、方針を聞きたい。

枝が大きく育ちすぎて車道や園路に飛び出して通行の支障となっていたり、見通しを阻害している低木は、安全を確保するため、今回の再整備において更新を検討しておりますが、樹勢が良好な低木は、現場や現物の状況を踏まえたうえで、他の公園や道路への移植することを検討しています。

なお、笹塚緑道の低木は、現物の樹勢を確認し、移植できるものは他の公園で使用しています。

工事に関するよくあるお問い合わせ

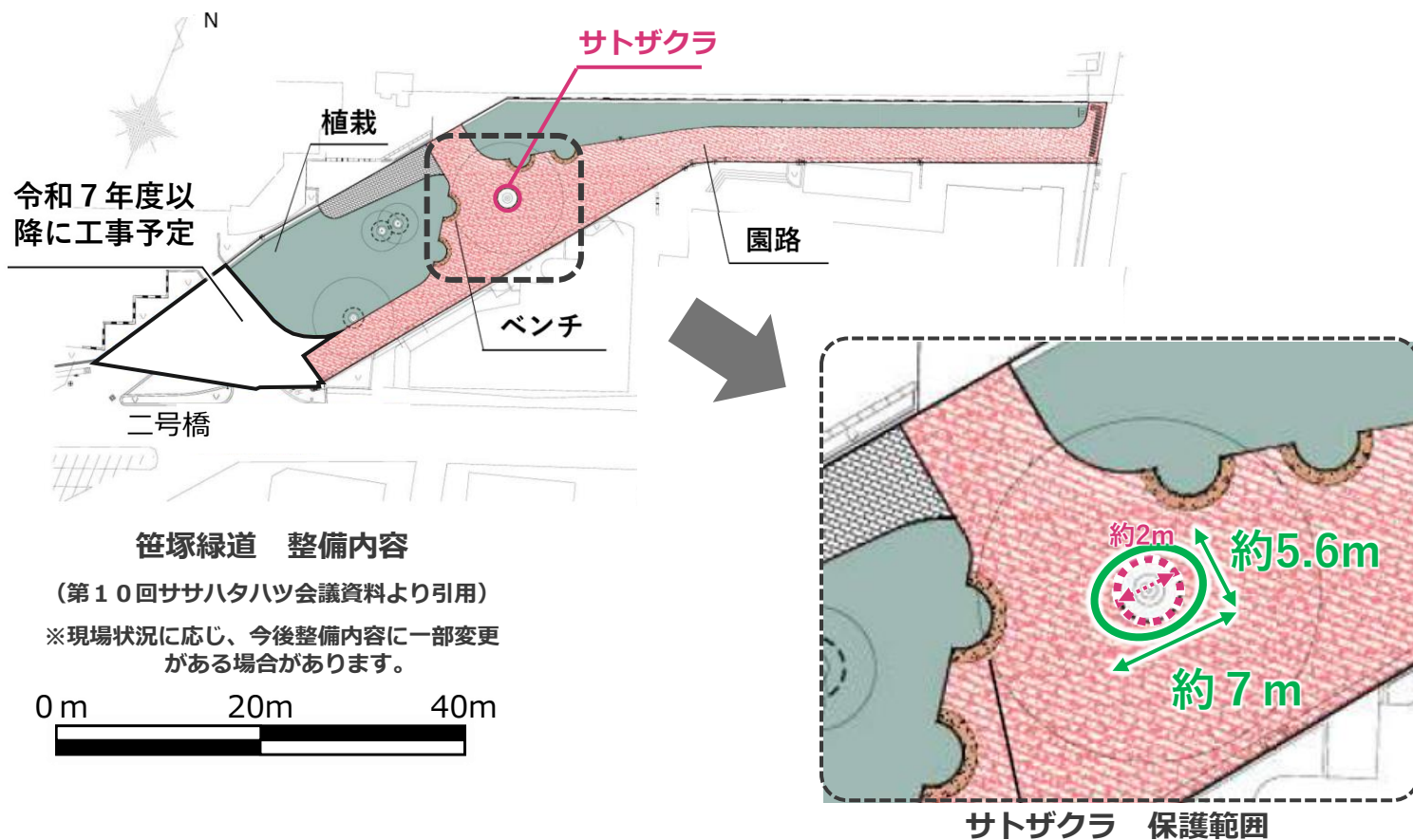
2025年1月31日公表

【笹塚緑道の工事状況について】

- ・ 樹木の根に配慮して施工しているのか。

当初、サトザクラの周り直径約2mの範囲に根があると想定して保護する計画でしたが、作業を進めたところ、当初の計画よりも根が広がっていることが分かりました。

そのため、専門家に意見を伺い、保護範囲をサトザクラの周り長径約7m・短径約5.6mに広げるとともに、併せて園路整備を行う範囲を見直すなど、樹木に配慮しながら丁寧に対応しています。



笹塚緑道 該当箇所（サトザクラ周辺）

【笹塚緑道の工事状況について】

- ・ 笹塚駅側の舗装がテラゾ舗装ではなく、インターロッキングブロック舗装になっている理由を教えてください。
掘削を進めたところ、水道局管理のカルバートが想定よりも浅い位置に埋設されていたことが判明し、テラゾ舗装を敷くことができないことから、インターロッキングブロック舗装に変更しました。



笹塚緑道 インターロッキングブロック舗装敷設箇所



笹塚緑道 掘削状況

カルバート

工事に関するよくあるお問い合わせ

2025年1月31日公表

【大山緑道の工事状況について】

- ・ 樹木の根に配慮して施工しているのか。

大山緑道の工事について、樹木に配慮しながら作業を進めています。作業を進めたところ、樹木の生育に影響があるような支持根は、地表近くや雨水浸透ますの設置箇所には伸びておりませんでした。

引き続き、既存樹木に配慮しながら、工事を進めていきます。



大山緑道 テラゾ舗装設置箇所の現場状況
(令和6年12月撮影)



大山緑道 浸透ます設置箇所の現場状況
(令和6年12月撮影)



【大山緑道の工事状況について】

- ・大山緑道の樹木について、機械施工により、サクラの根が傷ついているのではないかと懸念されています。

街路樹診断等マニュアル（東京都建設局）では、「工事配慮エリア内の掘削は、根の切断を防ぐため、極力人力施工とする」とされており、現場においては状況に応じて対応しています。工事配慮エリア内において、樹木の根の伸長が予想される場合は、樹木の枝張り等を確認しながら樹木の根だけに限らず、埋設物等にも配慮して丁寧に施工しています。

具体的には、樹木の状況が1本1本異なることから、まず人力で探り堀りを行い、樹木の根や埋設物等がないことを確認した上で、2人体制（機械操縦、手元指示）で、根の状況を確認しながら、丁寧に機械施工を行っています。また、必要に応じて専門家に意見を伺いながら、工事を実施していきます。

よくお問い合わせをいただく大山緑道の樹木の根の周りの掘削についても、上記の流れで施工を行っており、まず、人力で樹木の根や埋設物等の状況を確認する探り堀りを行ったところ、腐朽した根が発見されました。その後、機械で丁寧に掘削したところ、土砂と一緒にその腐朽した根が剥離したものです。

なお、腐朽した根であり樹木の生育に必要な支持根ではないため、特に応急的な対応はしていません。

デンドロジスト（樹木学者）濱野周泰博士に現場を見ていただきました

2025年9月8日更新

樹木学・造園学の専門家である濱野周泰博士に、工事の状況に応じてご意見を伺いながら、工事を進めています。整備内容について、工事現場でご助言をいただくとともに、よくお問い合わせをいただく内容についても、ご意見を伺いました。

濱野周泰博士 プロフィール

樹木医学会評議員／明治神宮境内総合調査委員会主査（樹木）／NPO社叢学会副理事長
NPO花と緑のまち三鷹創造協会理事長／国分寺市農業委員会委員



- ・ 2024年10月 3日（木）笹塚緑道の工事現場を確認いただきました。
- ・ 2024年11月 7日（木）テラゾ舗装の樹木への影響や農園の運営について、ご意見を伺いました。
- ・ 2024年12月23日（月）笹塚緑道・大山緑道の工事現場を確認いただきました。
- ・ 2025年 2月 6日（木）施工方法や土壌改良の実施等、よくお問い合わせをいただく内容についてご意見を伺いました。
- ・ 2025年 3月18日（火）既存樹木の根への影響や農園の管理方法などについて、ご意見を伺いました。
- ・ 2025年 4月28日（月）大山緑道・幡ヶ谷緑道の現場を確認いただきました。
- ・ 2025年 6月 5日（木）幡ヶ谷緑道・西原緑道・初台緑道内の樹木を確認いただきました。
- ・ 2025年 8月19日（火）大山緑道・幡ヶ谷緑道の現場を確認いただきました。



笹塚緑道にて現場を見ていただいている様子



大山緑道にて現場を見ていただいている様子



【大山緑道の工事状況について】

・地域の方から、「樹木の根に配慮すると聞いていたのに、大山緑道の工事現場に大量の根が廃棄されていたが、事実関係を確認したい。」というお問い合わせをいただきました。

以下の写真は、ほとんどが植替え予定の既存の低木の根であり、一部、高木の根も混在しておりましたが、掘削により機械で根を切断したものではなく、腐朽していたために施工中にとれてしまったものです。

根の状況について、濱野先生に念のため、ご確認をお願いしました。



大山緑道工事現場 該当写真



濱野先生 確認の様子

濱野先生に現物を確認いただいたところ、すでに腐朽していた根であり、掘削により機械で根を切断したものではないとのご意見を頂きました。

【樹木の根に配慮した施工方法について】

・街路樹診断等マニュアル（東京都建設局）では、「工事配慮エリア内の掘削は、根の切断を防ぐため、極力人力施工とする」とされており、現場においては状況に応じて対応しています。工事配慮エリア内において、樹木の根の伸長が予想される場合は、樹木の枝張り等を確認しながら樹木の根だけに限らず、埋設物等にも配慮して丁寧に施工しています。

具体的には、まずは人力で探り堀りを行い、樹木の根や埋設物等がないことを確認した上で、2人体制（機械操縦、手元指示）で根の状況を確認しながら、丁寧に機械施工を行っています。

また、露出した根は、根巻きシートでの保護など、以下の写真のとおり対応しています。

樹木の根に配慮した施工方法について、濱野先生のお考えがあればご意見をいただきたい。

上記の施工方法で問題ありません。基本的に根は下に向かって伸びていくため、表面に根が張っていないかを確認することが大切です。上記のとおり、人力で根や埋設物の確認をする手順が重要であると考えます。樹木の根に配慮して、かなり丁寧に対応していると思います。



根巻きシートでの保護



根への水撒き



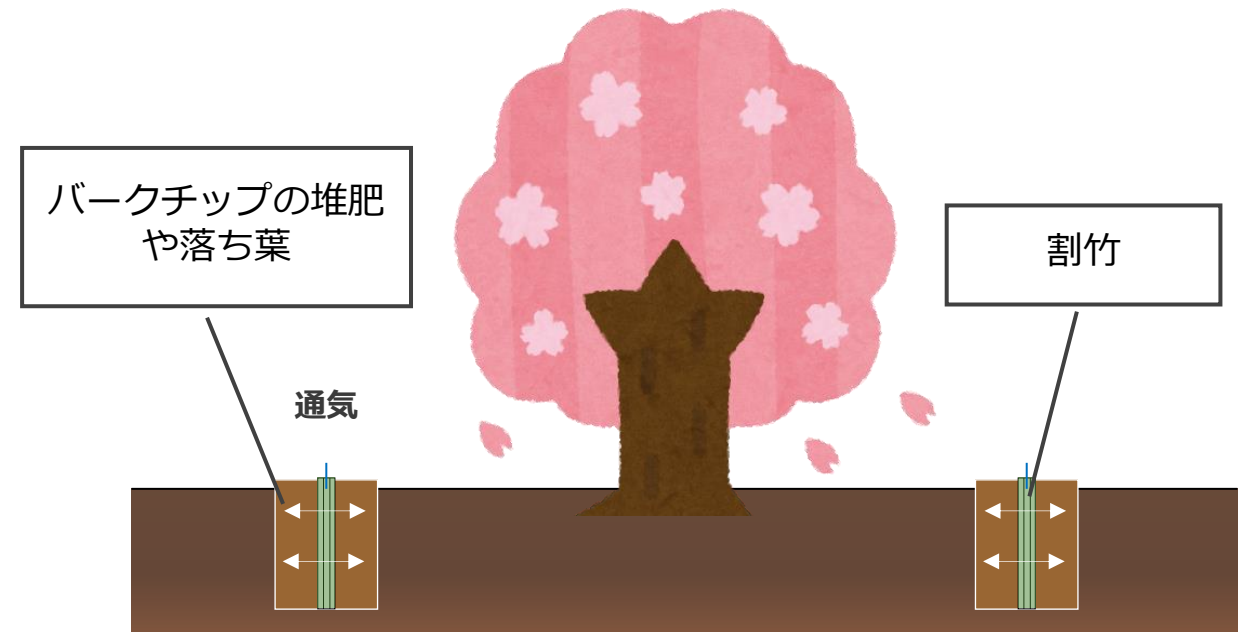
癒合材塗布

【土壌改良について】

・「土壌改良は工事開始前に実施しないといけない」という地域の方からのご意見があるが、区としては、再整備工事において土を掘り返すため、一定の効果があると考えている。再整備後に必要に応じて「割竹挿入縦穴式土壌改良法」などの実施を検討します。土壌改良に関して、濱野先生のお考えがあれば教えてほしい。

工事を行うと土壌に酸素が入りますが、時間が経つと土壌が固まってしまうため、「割竹挿入縦穴式土壌改良法」を実施すると良いと考えます。

割竹と掘った穴の隙間に入れる肥料については、バークチップの堆肥（有機質材）や落ち葉が効果的です。



割竹挿入縦穴式土壌改良法

デンドロジスト（樹木学者）濱野周泰博士に現場を見ていただきました 2025年6月9日更新

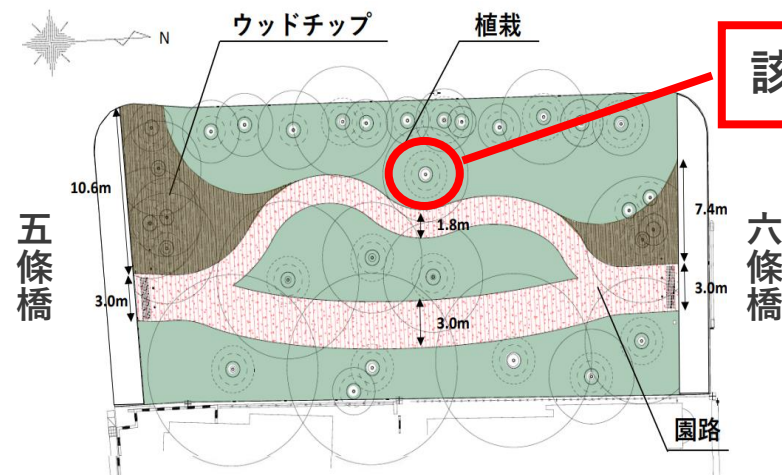
【樹木の根について】

大山緑道（五條橋～六條橋）中央付近のケヤキの根が、想定よりも広がっていました。根が支障となるため、濱野博士に現場を確認していただきました。

根が地表で広がっているのは、土壌（土中）や基層が硬い影響で、根が下方方向に生長せず、横方向に伸びてしまったと考えられます。

この状態であれば、黄色の線（右図）のところで処理を行い、切断面を癒合材で保護し、園路の位置をずらすことで、ケヤキの生育に支障はないと考えられます。

区：専門家のご助言を踏まえ、街路樹診断等
マニュアル（東京都建設局）に基づき処理します。



該当樹木

大山緑道 整備内容

（第11回ササハタハツ会議資料より引用）

※現場状況に応じ、今後整備内容に一部変更
がある場合があります。

0m 10m 20m



該当根

デンドロジスト（樹木学者）濱野周泰博士に現場を見ていただきました 2025年9月8日更新

【剪定について】

大山緑道（四條橋～五條橋）で7月下旬から8月中旬に実施した剪定作業について、ご意見をいただきました。今回実施した剪定の主な目的は、次の3点です。

- ① 台風などの強風時に枝折れの可能性がある枝の除去
- ② 高木が繁茂しすぎて地表面まであまり光が届いていない状況であること
- ③ 枝木が四方に伸びていたため、樹形の矯正を行うこと

剪定の作業状況や処理方法について、現場を濱野先生に確認していただきました。

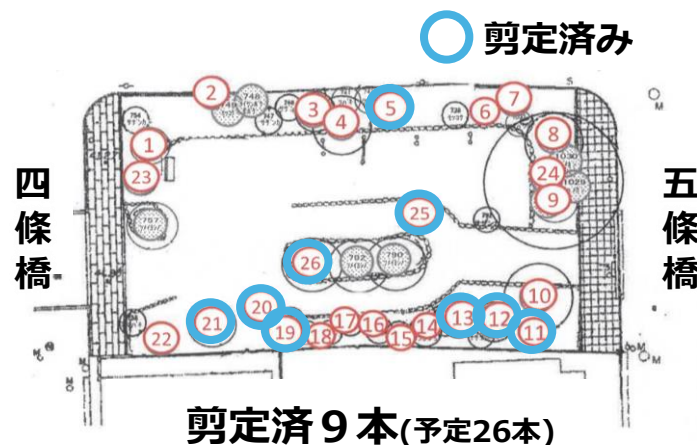
「夏季剪定として丁寧に作業しており、全体的に問題ない。切断面の処理（癒合剤塗布）についても、適切であり、樹形の矯正もきれいに整えられている。」とのご意見をいただきました。

また、「新枝が枯れないために、9月中は晴れの日が5日以上続く場合は、水撒きを実施した方がよい。」とのご意見もいただきました。

天候などを考慮して適宜水撒きを実施し、残りの剪定作業については、10月以降に再開予定です。



大山緑道にて現場を確認いただいている様子



剪定前



剪定後

例：⑫ケヤキ 8/1及び12日剪定